

## 2024年度第2回須坂市部活動地域移行検討協議会議事録

○日時 2024年8月27日(火) 16:30～18:00

○場所 須坂市消防本部3階大会議室

○出席者

【協議会委員】 出席17人(うち代理出席1人)

【オブザーバー】 1人

【要領6による出席者】 1人

【事務局出席者】 6人

全体進行(教育次長)

1 開 会

2 あいさつ

(教育長)

第2回の協議会ですが、本当にお忙しいお時間にお集まりいただきありがとうございます。今日の協議会ですが、次第を見ていただくとわかりますとおり、前回の協議の後、規約、運営方針案に多少見直し箇所がありますのでご協議いただき、その後、活動場所への移動とか保護者への支援とか、具体的な運営について課題となっていることをご協議いただくほか、成果を上げております陸上の地域クラブに続く、試行競技について説明させていただきます。よろしくお願いします。

少し話は変わりますが、この会議の前に行われた定例教育委員会でも話をしたのですが、中学生に必要な居場所ということがよく言われます。居場所というのは、そこでその子らしさを出ることができるか、自分が受け入れられるところとかが居場所と言われています。そのお子さんにとって学びと成長の場所です。

まさにここでご検討いただいている地域の支えで運営するクラブ活動も一つのかげがえのない居場所になると思います。技術を高めるだけの場所ではなく、自分が自分として自分なりに生きていく場所が皆さんの知恵と努力でできていると思っています。

まだ乗り越えなければならない課題も山積ですが、経験豊富な皆さんにお集まりいただいていますので、ご意見をいただきながら検討して行きたいと思っています。

3 議事(進行 座長)

(1) 部活動に代わる新たな地域クラブ規約案について

部活動地域移行コーディネーターから部活動に代わる新たな地域クラブ規約案について次のとおり説明し、決定した。

(部活動地域移行コーディネーター)

前回の協議会で出された意見や協議会以降、委員からの意見に基づき、一部訂正をしました。

題名については、中学生地域クラブとしていたところを、中学生を削除しました。

中学生と表現をして、中学生だけに限定するようなイメージを持たせるよりも、大人も子供も一緒になってクラブ活動を行い、それが地域のスポーツや文化芸術活動の振興に繋がるような活動になれば良いという意見があったことから、「中学生」を削除するものです。国のガイドラインでも、将来にわたり、生徒がスポーツや文化芸術活動に継続して親しめる環境を作っていくことが定められています。

中学を卒業しても地域でスポーツや文化芸術活動に親しむ環境を整備していくという思いも込めて、中学生という文言を削除するものです。

続いて、目次ですが、第 20 条削除しましたので、第 20 条以降を 1 条ずつ繰り上げるため、訂正するものです。

第 1 条第 1 号の名称の訂正は、題名の訂正と同じ理由により訂正をするものです。

第 2 条第 1 項の地域クラブの設立の目的等の訂正ですが、これも題名の中学生を削ったことに関連して訂正をするもので、地域クラブは、中学生のスポーツ文化芸術活動の支援に関する活動を行っていくことに、地域のスポーツ文化芸術活動の振興に努めることを加え、訂正をしました。

須坂市の新たな地域クラブ活動の目指す姿の中にも、「生徒と指導者、関係者等との交流等の促進により、地域のスポーツ・文化芸術活動の振興に努める」とされていますので、そういった意味からも付け加えるものです。

第 3 条から第 17 条まで訂正はありません。

第 18 条の専門部のうち、第 12 号の科学についてですが、話を聞くとところによれば、休日は活動をしておらず、以前は、技術情報センターの科学クラブへ顔を出していたようですが、今は生徒から希望がないとのことでした。

現時点では、休日の活動はなくても良いことや他校の技術部の活動の中に科学部の活動も加えて一つの専門部としても良いと思いますので、ここでは科学部は削っていくこととしました。ただし、今後、学校の考えを再確認する中で決定していきたいと考えています。

第 19 条は変更ありません。

第 20 条になりますが、これについては前回の会議で、指導者登録というのは国の登録のことなのか競技団体独自のものなのかという質問をいただきました。

ここで言う指導者登録というのは、次条に規定されておりますが、指導者登録届を提出して、会長の承認を受けた者のことを指しているのですが、20条があることによって、かえってわかりにくくなることも考えられますので、特にこの条文がなくても影響はないと考え、削除することとしました。

これによりまして、21 条から 31 条までを 1 錠ずつ繰り上げることにしました。

資料 1 ページの目次もこれによって関連して訂正するものでございます。

## (2) 部活動に代わる新たな地域クラブ運営方針案について

部活動地域移行コーディネーターから部活動に代わる新たな地域クラブ運営方針

案について次のとおり説明し、決定した。

(部活動地域移行コーディネーター)

前回提示しました運営方針案については今日まで委員から特に意見はありませんでした。本日お示した訂正箇所は、規約案で訂正したことに伴うものです。

まず1点目は、題名の「中学生」を削除します。

2点目は、1の活動の目標の最後に、「地域のスポーツ・文化芸術活動の振興に努める。」を加えるものです。

これまで部活動で培われてきた好ましい人間関係の構築や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養などの教育的意義の継承、発展を図る中で、中学生のスポーツ・文化芸術活動の支援を行い、地域のスポーツ・文化芸術活動の振興にも努めていくという活動目標にするものです。

前にも説明しましたが、この運営方針は、長野県地域クラブ活動推進ガイドラインを踏まえ策定するもので、運営方針には、「活動目標」、「目指す生徒像」、「育てたい力」、「指導方針」、「活動時間」、「休養」等を明示し、公表していくもので、クラブの方針を示す大事なものです。

3の活動方針、4の指導方針につきましては、以前に議論をして策定しました「須坂市の新たな地域クラブ活動の目指す姿」の内容のとおりです。

5の休養日及び活動時間についても「須坂市中学校の部活動運営に係る方針」に規定する休養日及び活動時間に沿って活動することとしていますので訂正等はないかと思いますが、1の活動目標、2の育みたい力の中で何かご意見等あればお願いしたいと思います。

2の育みたい力は、裏面に記載のとおり、「須坂市小中学校の適正規模等に関する市民アンケート結果」や「小中学校のあり方検討会議提言」を参考に、これまで協議会で議論されてきたことを基に策定したものです。

子どもたちに育みたい能力では、「他者を思いやることができる心」や「自分の思いや考えを主張できる表現力」が多かったこと。自分の伸ばしたい能力では、「自分の思いや考えを主張できる表現力」、「他の人と協力しながら、うまく付き合っていく力」が多かったこと、また、小中学校のあり方検討会議の提言を考慮し策定したものです。

### (3) 部活動に代わる新たな地域クラブの運営について

座長から議事(3)及び(4)については、今回決定するのではなく、今後、継続して審議することから、今回は意見をいただきたい旨説明した。

#### ① 会費・指導者謝礼について

部活動地域移行コーディネーターから部活動に代わる新たな地域クラブの会費・指導者謝礼について次のとおり説明し、意見を求めた。

(部活動地域移行コーディネーター)

指導者への謝金と会費について、2パターンを仮定し試算しました。あくまでも仮定ということでご理解願います。

資料3-1から説明します。

指導者41人、指導者への謝金を1,100円とした場合です。1,100円としたのは、裏面の下欄に参考として記載しましたが、須坂市の会計年度任用職員の時間額報酬を参考に、源泉徴収をしても最低賃金(2023年10月1日発表で長野県は948円)を上回るような額として設定しました。現在、試行している須坂ACの指導者への謝礼も1時間当たり1,100円としています。

まず(1)土日のどちらか1日を地域クラブとして活動した場合についてです。

地域クラブの運営経費は、事務局費として350万円。内訳は職員人件費、消耗品費、通信費などです。これは、今年1月31日に行われた第4回長野県スポーツ・文化芸術活動連絡協議会で示されていた額を参考にしたものです。

指導者への謝金は6,494,400円になります。

指導者を41人としたのは、現在の部活動数が41部活であるため、指導者数もそれに合わせました。平日も地域移行するとした場合、平日は学校ごとに活動しても良いようにということも考慮して41人と仮定しました。

指導者への保険料も含めて、経費は10,737,450円となります。

この地域クラブの運営経費に対して、①は、その経費の財源となる会費などの収入ということで、会費月1,000円ということで仮定し計算すると、参加者の保険代も含めて8,419,200円となります。経費と差引で2,318,250円収入が不足することになります。

参加者は4~7月は834人、8~3月は552人と仮定したのは、2024年度の部活動加入者数を根拠にしました。4~7月は3年生も含めた人数、8~3月は、3年生を抜いた1、2年生の数となっています。

②は参加者会費を月1,500円とした場合です。①と同じ条件で負担金を算出すると1,557,750円収入が支出を上回るようになります。

次に、休日だけでなく、(2)は、平日・休日ともに地域移行した場合で、平日週4日、休日1日実施した場合です。

地域クラブの運営費は、事務局費は、先程と同額です。

指導者謝金は、平日は1日2時間で4日、休日は3時間で計週11時間ということで算出しました。スポーツ保険代も含めて、経費は28,055,850円となります。

この地域クラブの運営経費に対して、①は、その経費の財源となる会費などの収入ですが、前頁の休日の場合と同じように、参加者を4~7月は834人、8~3月は552人と仮定し、会費月1,000円ということで計算すると、参加者の保険代も含めて8,419,200円となります。経費と差引で19,636,650円収入が不足することになります。

②は参加者会費を月3,000円とした場合です。①と同じ条件で負担金を算出すると4,132,650円収入が不足することになります。

③は参加者会費を月 3,500 円とした場合です。①②と同じ条件で負担金を算出すると 256,650 円収入が不足することになります。ほぼ同じぐらいになります

次に、資料3-2を説明いたします。

指導者 50 人、指導者への謝金を 1,100 円とした場合です。1,100 円としたのは、先程の説明のとおりです。

指導者 50 人としたのは、先程、現在の部活動数が 41 部活であるため指導者数もそれに合わせましたが、種目などによっては、専門的な指導を行う上で、更に指導者が必要な場合もありますので、その点を考慮して 50 人と仮定し、算出したものです。

まず(1)土日のどちらか 1 日を地域クラブとして活動した場合、地域クラブの運営経費は、事務局費 350 万円は、先ほどと同様です。

指導者への謝金は 7,920,000 円です。

スポーツ保険料も含めて、経費は 12,179,700 円となります。

この地域クラブの運営経費に対して、①は、会費月 1,000 円ということで仮定し計算すると、参加者の保険代も含めて 8,419,200 円となります。経費と差引で 3,760,500 円収入が不足することになります。

②は参加者会費を月 1,500 円とした場合です。①と同じ条件で負担金を算出すると 115,500 円収入が支出を上回るようになります。

次に休日だけでなく、(2)は、平日・休日ともに地域移行した場合で、平日週4日、休日1日実施した場合です。

地域クラブの運営費は、指導者謝金は、平日は4日、1日当たり2時間で8時間、休日は1日3時間で週 11 時間ということで算出しました。

スポーツ保険代も含めて、経費は 33,299,700 円となります。

この地域クラブの運営経費に対して、①は、会費月 1,000 円ということで計算すると、参加者の保険代も含めて 8,419,200 円となります。経費と差引で 24,880,500 円収入が不足することになります。

②は参加者会費を月 3,000 円とした場合です。①と同じ条件で負担金を算出すると 9,376,500 円収入が不足することになります。

③は参加者会費を月 4,000 円とした場合です。①②と同じ条件で負担金を算出すると 1,624,500 円収入が不足することになります。

参加者はどれくらいになるかわかりませんが、指導者の数も何人が適当なのかは、まだわからない状況ですが、資料に例示した試算結果からは、休日の移行については、月 1,000 円くらいが適正なのかと感じています。平日については、休日の地域移行の状況を把握しながら、他市町村の状況も参考にしながら、今後、しっかり検討していくことが良いのではないかと感じています。

いずれにしても皆様のご意見をお聞きし、検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。なお、部活動地域移行に係る保護者アンケートの結果、月 3,000 円以内と回答した保護者は、小学生 43.5%、中学生 36.4%で一番多く、月 1,000 円、500 円以内と回答した保護者も含めると小学生は 70%、中学生は 78%となっています。ア

ンケート結果も参考にしながら検討していきたいと考えています。

### ① 会費・指導者謝礼についての委員からの意見

#### (A 委員)

陸上で試行をしているところで発言させていただきます。

自分が一番課題と思っていることで、皆さんに話題にしてもらいたいことは、指導者の謝金についてです。試行で指導の協力をいただいている方の声ですが、謝礼1,100円は安いのではという意見です。

我々は子どもたちを相手にして、大事なクラブの運営方針や活動方針により、須坂市の子どもたちをこういうふう育てよう、こういう場所でこういうふうやりましょうという理念で、責任を持って指導に当たるわけです。休日に皆さんは、家庭があったり、予定があったりするところをその時間に都合をつけて来ていただいています。

今の陸上の指導者は、ほとんどの方が自分の仕事を持っている中で、指導にきていただいています。現状からすると部活動指導員が現在時間1,600円で指導しています。それも頭に入れていただいて、指導者の謝金についてまた話題にしていただければと思います。

それから今後、各競技の拠点校のことが出てくると思います。陸上は、今、東中学校で活動しているのですが、数多くの子どもたちが、かなりの回数をその学校で活動すると、クラブとして必要な消耗品や物品も出てくるのではないかと思います。

具体的には、今、陸上でもいくつかあって、例えばハードルが少ないとか、ラインが足りないとかあります。今、そういったことも同時に皆さん考えていただき、拠点となった学校、拠点となった所で必要な予算も考えていかないといけないのではないかと思います。

#### (B委員)

先日、新聞に部活動の地域移行に対し、国が補助金を考えているという記事が載っていました。国から補助金を確保し、どうしてもお金がかかるときは、他市でもやりましたが、企業からの協賛金をお願いするとか、今、話があったように専門の方が指導するわけですから、手当はしっかり考える必要があると思います。

経費もかかるし、今は人数もどうなるかわかりませんが、国の補助金などを確認しながら進めていただきたいと思います。

### (3) 部活動に代わる新たな地域クラブの運営について

#### ② 活動場所への移動について

部活動地域移行コーディネーターから部活動に代わる新たな地域クラブの活動場所への移動について次のとおり説明し、意見を求めた。

#### (部活動地域移行コーディネーター)

活動場所への移動をどうするのかという課題があることから、概算で送迎バスを利用

した場合、費用がどれくらいかかるか算出していただきました。

内容についてですが、平日は週4日、休日は週1日運行するというので、大型バス1台(55人乗り)を利用し、あくまでも仮定ですが、東中学校の生徒をそれぞれの活動場所へバスで送迎するという設定で算出しました。

往きは、東中学校を出発し、各中学校へ、帰りは、各中学校から東中学校へ帰るという設定で、平日は年間160日、休日は40日運行することで計算してみると、平日は年間1,450万円、休日は450万円、計1,900万円、1日当たりになると1人往復で1,900円かかることとなります。参考ですが、路線バスの運賃で、東中学校と須坂駅の間は片道300円、往復で600円となっています。

常盤中、相森中、墨坂中の生徒もそれぞれの活動場所へバスに乗って4中学校を巡回するようにすると、バス1台ではとても足りなくなります。そうすると更に大きな費用が掛かることとなります。ここではバス1台を地域クラブの送迎に使った場合にいくらかかるのかという認識で見えていただきたいと思います。

中学生の保護者への部活動地域移行に関するアンケート調査では、地域クラブの活動場所への移動について、自転車や公共交通機関、家族などによる送迎と考えている保護者が84%と多い状況でしたが、有料でも送迎バスなどを希望する保護者が12%いました。小学生保護者回答もほぼ同じ回答でした。

送迎バスの活用は、多額の費用がかかり、現実的には大型バスの活用はむずかしいのではないかと感じています。

休日の活動について、移動に困る人は、乗り合いで移動できるように検討することも良いのではないかと思います。

次に、平日はどうすればよいかということです。平日の活動は、みんなで集まるのではなく、それぞれの所属学校で基本的には行うとか、あるいは、活動時間を遅くするとか、今後、検討が必要と考えています。

平日の指導者の確保について課題を抱える市町村が多いのが現状です。例えば午後7時から練習を始めるとか、活動開始時間を今の部活動の時間よりも遅くすることが必要になって来るかもしれません。

しばらくの間は、休日の活動のことを考えれば良いと思いますが、併せて平日の移動方法についても検討が必要と考えています。

② 活動場所への移動について 委員からの意見 なし

(3) 部活動に代わる新たな地域クラブの運営について

③ 保護者支援等について

部活動地域移行コーディネーターから部活動に代わる新たな地域クラブの保護者支援について次のとおり説明し、意見を求めた。

(部活動地域移行コーディネーター)

保護者への支援については、これまでの協議会の中で課題としてあげられていました。保護者支援の事例はあまり見つからなかったのですが、他自治体の事例を紹介させていただきます。

最初につくば市の地域クラブ活動参加費用への支援についてです。

つくば市の部活動の地域移行については、須坂市と同じように休日の部活動から進めているようですが、学校ごとに地域移行を進めておまして、学校ごとにそれぞれ進み方が違う状況です。また、調べてみると会費も様々で、ちなみに既に平日の部活動まで地域移行しているところがありましたが、会費は月5,500円となっていました。困窮家庭に参加費用の補助をしています。

交付額は24,000円以内ということで、交付対象者は、①として市内に住民票があり、居住していること、②として生活保護世帯または就学援助世帯、③として市税の滞納がないこととなっております。

次に柏市の地域クラブ参加費への支援についてです。

柏市は柏市スポーツ文化推進協会という団体が総括団体になっていて、昨年9月から体制が整ったところから、休日の部活動を地域移行しています。

柏市の部活動に代わる地域クラブについては、登録料は5,000円、会費が月2,000円となっています。

柏市もつくば市と同じように困窮家庭に参加費用の補助をしています。交付額は、登録料については5,000円以内、会費については月2,000円以内を補助しています。

交付対象者は、地域クラブに参加する柏市の中学校の生徒の保護者で、生活保護世帯または就学援助世帯を対象としています。補助内容は、つくば市と概ね同じ内容でした。

次に、県内の状況ですが、県内で支援を行っている自治体の情報は見つかりませんでした。少し意味合いが違うのですが、長野市は、地域クラブへの参加費の補助というのではなくて、未来発見プロジェクトとして子どもたちがやりたいことを見つけ成長できる環境を提供することを目的に、長野市内に住む小中学生全員を対象に一人当たり年間3万円の電子ポイントを配布しているということです。芸術、スポーツの教室や自然体験など、好きなプログラムで使うことができるということです。

③ 保護者支援等について 委員からの意見等 なし

(4) 部活動に代わる新たな地域クラブの試行について

① 地域クラブの試行について

部活動地域移行コーディネーターから地域クラブの新たな試行について次のとおり説明し、意見を求めた。

(部活動地域移行コーディネーター)

地域移行に向けて、試行をしながら課題を把握して対応していくため、今、陸上競技で

試行を行っていますが、新たに男子バレーボールと女子バレーボールとサッカーの3競技について試行を始める計画をしています。いずれもこの3競技、部員数が少なく、大会も合同チームで参加している学校もあることから、試行を行うこととしました。

高山中学校にも声がけをして、市町村を越えて試行を実施する予定です。

期間は、9月から3月までの間で、土曜、日曜日の中で月1回実施をする予定です。

対象者は、中学生のうち希望者ということで、部員でなくても希望すれば参加できるということで募集をしていきます。

① 地域クラブの試行について 委員からの意見等

試行の拠点場所について質問があり、競技ごとに拠点校を回答した。

座長から合同チームでの大会への参加状況について説明した。

(4) 部活動に代わる新たな地域クラブの試行について

② 地域クラブ(須坂AC)試行状況報告

地域クラブ(須坂AC)代表指導者から地域クラブ(須坂AC)の試行状況について次のとおり報告した。

(須坂AC代表指導者)

休日にほぼ毎週各中学校が集まって合同で活動しています。

一番大事にしているのは、各学校の活動の方針で、この大会に出る、出ないがありますが、その調整がすごく必要になってきています。

合同活動の拠点となっている東中学校では、年度当初に出場する大会、記録会を精選して決めていて、出場する大会を抑えているので、各校の受け入れが可能となっています。

各学校の実情に対応し、各校で大会に出ない生徒たちを受け入れて、東中学校がベースキャンプとなり、大会に参加しない生徒たちの休日の活動場所を作っています。

今は中学生が大会に出る機会が増えています。主催する団体がそれぞれの横の連絡があまりないので、それぞれの大会に中学生が出るようになってしまっていて、多いときには月4週間連続で大会に出ている子どももいます。

ですから、できるだけ精選しながら考えていかなければならないのですが、各学校の活動はやはり大事にしたいので、各学校さんの対応に合わせて、今言ったような対応をしています。

それから自分たちが大事にしているのは、LINEのオープンチャットに全員登録し、それを利用して、それぞれの学校で何をやっているのか、あるいは須坂ACではどういうことをやっているのか、次の活動日は学校としては参加できないけれど、子どもたち何人かは参加していいですか、みたいなことをオープンチャットに掲載し、保護者も含めて全員がわかるようにしている。できるだけ皆で情報共有しながらやっていこうということでようやく定着してきて、うまくいっている。今のところ困ったということはありません。定

期的に休日は、ほぼ毎週いくつかの中学校が集まり活動しています。

これからのお願いですが、市外でもクラブが立ち上がってきていますが、クラブの名前がわかりづらくなっている。自分たちは市教委と相談しながら、地域の名前をいれたいということで、今の名前になっている。地域名を入れるとどこのクラブかわかるので、私は名前に地域名を入れたほうが良いと思っています。

② 地域クラブ(須坂AC)試行状況報告について 委員からの意見等 なし

○ 議事全体を通して委員からの意見  
(C委員)

費用面で千曲市では、個人や企業から寄付金を募ったり、お金ではないサポートもあると前回までの会議の中で話がありました。そういった取組みをもっと積極的にこちらから仕掛けていくのも良いのではないかと思います。

それと、昨年度、須坂ACの活動に参加者が遊びに来るような感覚で参加し、それがすごく良いという話をされていました。

部活動の地域移行については、一般的にネガティブなイメージで、少子化とか、お金がかかるとか、今後どうなっていくのかとか、不安の方が前に出てネガティブなイメージが多いと思います。楽しく遊べるとか、こんな取組ができるとか、ポジティブな情報発信ができたらい良いのではないかと思います。

○ 議事全体を通しての意見の後、協議会に参加された長野県教育委員会、高山村教育委員会、本協議会オブザーバー、高等学校教諭から発言を求め、それぞれ発言後議事を終了した。

○ 最後に全体を通して、D委員から夏休み中の中学生のスポーツ合宿と文化祭に向けての活動について報告があり、協議会を閉会とした。